



小田小だより

平成27年 2月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 Tel.045(775)3011
<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/> 横浜市立小田小学校



日本晴れ

～叱られる幸せに思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

これは、10年以上も前に私が担任していた5年生の女の子の作文です。

私のお母さんは、私たちが茶碗を壊しても、「一つのもので、二つになったんだから増えた。いいよ、いいよ」と言って、ちっとも怒りません。

くよくよした顔など見たことがありません。一年中、日本晴れの顔をして働いています。ですから、ときどき八百屋さんか魚屋さんのおかみさんに間違われます。そんなときでも、お母さんは腹を立てずに、ほがらかに笑っています。

テレビで悲しいドラマを見ていると、大粒の涙をぼろぼろこぼして、「そんなにいじめなくてもいいのに・・・」とか「どうして二人は別れなきゃいけないのかしらね・・・」と、エプロンでチンと鼻をかみ、声も出して泣いてしまいます。

私が宿題が分からなくて、「教えてえ」と言うと、「お母さんは、大学の問題ならすらすらなんだけど、小学生の問題はやさし過ぎて説明するのが苦手だから、お父さんに聞きなさい」と言って、うまく逃げられてしまいます。

お母さんは、ほがらかで、いつも周りの人を笑わせて、家中を楽しくしています。けれども、私が友達にいじわるをしたり、悪いことをすると、とてもこわい顔をして叱ってくれます。ときどき、泣きながら本気で怒るときもあります。

私のお母さんは、近所の人からもとても評判がいいです。

私は、こんなお母さんが大好きです。



家族からも、周りの人達からも好かれる、朗らかなお母さんの様子が、目に見えるようです。こんな奥さんに巡り会われたご主人も幸せでしょう。

生き生きと学ぶ生徒にあふれた、東京都内のある中学校を訪問したときに私は感動しました。全ての教科を人権教育の視点から見直していくという試みの公開研究授業でした。明るい雰囲気の中で、ねらいに沿ってみごとに展開されていたのですが、それ以上に感動したことがありました。学年全部だということが、後で分かりましたが、その学級では、「家族にしてもらったことで嬉しかったこと」を3つ書かせて掲示していました。その中に、「お母さんが、素敵な洋服を買ってくれた」「お父さんが、レストランに連れて行ってくれた」「兄が、相談に乗ってくれた」等々に混じって、「お母さんが、真剣に叱ってくれた」「お父さんが、本気で叱ってくれた」と書いている子がたくさんいたのです。

叱られる幸せは教育の原点です。叱られない不幸を背負った子育ての、その行き着く先が心配です。あの子があなのは、家庭に問題があるからと安易に「多罰化（失敗や不幸を自分ではなく、他人やまわりの環境のせいにしていくこと）」していく体質が、今の子育てを混乱させてはいないでしょうか。「褒めることの大切さ」と同様に、「叱ることの大切さ」を見直し、逃げたり責任を回避したりして多罰化することではなく、保護者の皆様と子育てについて共に悩み、ご苦労と喜びを共有していきたいと学校は思っています。

「福は一心（うち）！」

もうすぐ節分。「叱られる幸せ」も子どもたちの心に宿りますように・・・。